座席構造について

本研究誌では、鉄道投資について考察を行うため、サービスに関する言及が多くなっている。数あるサービスの中で利用客の目につきやすいものの１つに接客設備としての車内の座席があるということから、本文中では車内の座席構造を表現する用語を随所に使わざるをえない。そこで、この場を使ってそれらの語句を簡単に説明しておく。

ロングシート

通勤型車両に多く見られる座席構造。座席がレールと平行な方向に伸びており、乗客は窓を背にして座る。東京の通勤電車ではおなじみであるが、東北地方や九州の地方都市圏を走る電車にもロングシートを用いたものが登場してきているほか、ＪＲ西日本やＪＲ四国にはローカル輸送を受け持つディーゼルカーに、この構造を持ったものが出現している。

クロスシート

ロングシートとは異なり、座席がレールと垂直な方向に設置されている構造を総称した用語。固定クロスシート、転換クロスシート、回転クロスシートに大別される。

固定クロスシート

クロスシートのうち、座席が固定されているものをさす。後述するボックスシートがこれの代表例だが、全員が車両中央方向を向いて座る「集

団見合方式」、逆に車両の中央を境に座席の向きが逆になっており、全員が車端方向を向いて座る「離反式」などの構造も存在する。

ボックスシート

固定クロスシートの一種。4 人（通常）が向かい合わせに座る構造になっているものを示す。近郊輸送用、急行列車用に国鉄時代に製造された車両では多くがこの構造をとっている。また、近年製造されたローカル輸送用の車両にも、ボックスシートを備えたものは相当数存在する。

転換クロスシート

クロスシートの一種。背もたれを前後に動かせるため、座る方向を変えることができ、2 人がけの座席であっても 4 人向かい合わせの座席としても利用できることが利点である。国鉄時代にもこの構造を持った車両の製造例は見られたが、国鉄分割・民営化後に都市圏のサービス向上を目指して生まれた一連の快速列車用車両では転換クロスシートを接客設備として採用した例が多い。

回転クロスシート

座席を回転させることで、転換クロスシートと同様に座る方向を 180 度変えて利用できるクロスシート。特急列車でよく見られる構造で、背もたれがリクライニングできるようになっているものも多い。

セミクロスシート

ドア付近をロングシート、そのほかを固定クロスシートとした構造のこと。この構造により駅で乗降にかかる時間が短くてすむと考えられる。大都市近郊の輸送を受け持つ車両として国鉄時代に製造された車両の多くはこの構造であった。